



木もれびの森の樹木(6)

前号でスギを取り上げましたが今回は同じ針葉樹で、木もれびの森に
あちこちで見られるヒノキとサワラです。

ヒノキとサワラはともにヒノキ科ヒノキ属の針葉樹で日本特産種です。ヒノキ
(檜、桧)は日本と台湾にのみ分布します。日本では木曾に樹齢 450 年のもの
が生息しているのが最高ですが、台湾では樹齢 2000 年のものが生息して
いるそうです。

ヒノキとサワラは樹形も樹皮も葉も似ていて一見して見分けがつかないでし
ょうが、この二つの木の見分ける方法は葉をよく見ることです。ヒノキは葉の先
が丸みを帯びていますが、サワラはとがっています。さらに葉の裏を見るとど
ちらも白い線(気孔線)がありますが、ヒノキは「Y字形」、サワラは「X字形」にな
っていますが、蝶ネクタイというほうがぴったりです。

ヒノキは日本では最高品質の建材として、古くから寺院や神社の建築物に
利用され、1000 年を超える寿命を保つものとして世界最古の木造建築物で
ある法隆寺をはじめ奈良県内にある歴史的建築物が今日まで現存しています。

ヒノキといえば木曾を連想されますが、木曾の五種類の銘木を木曾五木といいます。江戸時代に
木曾の山を管理していた尾張藩により「木一本、首一つ」といわれる厳しい保護政策がとられました。
その五木はヒノキ(ヒノキ科ヒノキ属)、サワラ(ヒノキ科ヒノキ属)、ネズコ(ヒノキ科ネズコ属)、ヒバ(あす
なる)(ヒノキ科アスナロ属)、コウヤマキ(コウヤマキ科コウヤマキ属)で木曾はこの五木が主体となっ
て美林が形成されています(林)。

木もれびの森の野鳥たち (6)

命がけのエサさがし・春のきざしと

1年で最もエサの不足するこの季節。野鳥たちにとって、食べ物
をいかに確保できるかが生死を分けます。

この時期、木の実はおおかた地面に落ち、枝にはほとんど残っ
ていません。シメやアオジなど木の実食の鳥たちは、危険の多い
地面におりてのエサ探しとなります。降り積もった落ち葉の中からミ
ミズや越冬中の虫を探すツグミやシロハラ。下やぶのアオキの小枝
にじっと止まり、フユシャクガなどの小虫を見つけるとフライキャッチ
で捕らえるルリビタキ。

でも、油断は禁物。葉が落ち見通しのよくなった林は小型のタカ
が、突然上から襲ってくることもあるからです。そんな時、近くの茂
みや下やぶは、小鳥たちの身を守ってくれる大事な隠れ家なので
す。

一方、この森で繁殖するシジュウカラやエナガは、そろそろ恋の
季節をむかえます。暖かな日には、シジュウカラの「ツツピーツツピ
ー」を繰り返すラブソングを聞くことができますでしょう。

葉を落とした雑木林は、そんな鳥たちの暮らしを垣間見るのには
最適です。驚かさないうように少し距離をおいて、そっと観察してみま
しょう(瀬尾)。



ヒノキの葉の裏



サワラの葉の裏



シメ



ルリビタキ

木もれびの森の草花

今年も気候の変化が激しく日本海側では大雪が降り沖縄では夏日を記録したり、春の温もりが来たかと思うとまた真冬の寒さになったり寒暖の差が激しく植物にどんな影響を与えるのでしょうか？・・・ 植物は休眠中で落葉樹は枯木と化し林床には落ち葉が積もりジャノヒゲ・ヤブラン・スゲ類などが青々と生い茂り、ところによりツタ類やアズマネザサなどで林床を緑色に染め上げています。

今回は花はなくジャノヒゲ&ヤブランの種子を載せてみました。ジャノヒゲの種子は瑠璃色というか濃い青色に熟し光り輝いて非常に美しい色です。花や種子は葉の陰に隠れていて葉をどけてみないと見えません。外見からは見えないので案外見た人は少ないのではないのでしょうか。葉を持ち上げると花や種が出てきます。種子とは種のことです。当たり前のことですが果実は皮、果肉そしてその中に種があります。

ジャノヒゲ・ヤブランなどはちょっと変わった植物で、果肉が早く落ちてしまい種子を露出したまま成熟するのだそうです。



オオバジャノヒゲ(大葉蛇の鬚) (ユリ科・常緑多年草)

淡い紫色の花がうつむきかげんに咲きます。葉はヤブランに似ている。

葉の幅はジャノヒゲにくらべると広く 2~4 倍くらいになる。種子は直径 1 ㍉近い球形で初めは緑色ですが熟して黒紫色になり葉より高い所に種子が付きます。

この実は果実ではなく種です。森の至るところに生育しています。



ヤブラン(藪蘭) (ユリ科・常緑多年草)

花茎の中間から上のほうに淡紫色の花を多数つける。ランではないがシュンランの葉に似ているのでランの名がつく。葉は厚く常緑で光沢があり、花と共に美しい。

種子は花後緑色の球形ですがやがて黒紫色になり光沢があり光に輝き美しく森にはたくさんあります。これは実ではなく種子です。

葉には光沢があり冬でも枯れないで観葉植物として庭によく植えられています。斑入りのものもあります。



ジャノヒゲ(蛇の鬚) 別名一リュウノヒゲ(竜の鬚)

(ユリ科・常緑多年草)

花は淡紫色で下向きに咲く。花後球形の種ができ、初めは緑色ですが次第に青色に変化してコバルトブルーに輝き美しい種子となる。

森にはオオバジャノヒゲ・ジャノヒゲ・ナガバジャノヒゲと 3 種あります。写真はナガバジャノヒゲだと思います。

ナガバジャノヒゲとジャノヒゲとは似ていて区別が難しい(葉の長さが 20 ㍉位のをジャノヒゲと言い 30~40 ㍉位のを

ナガバジャノヒゲと言う)。

花も種も根元に隠れているので外見からは見えません。葉をかき分けて見てください。種は直径 8 ㍉くらいです。種子は瑠璃色というか、濃い青色に熟し一見果実のように見えますが果実ではなく「種子」です。種子は色鮮やかなコバルトブルーに輝き実に美しい (田崎)。